

吉田松陰と兵学門人妻木弥次郎・寿之進父子

この特別公開展示では、山鹿流兵学^{やまがりゅうへいがく}を媒介に吉田松陰と固い師弟関係を結んだ妻木弥次郎・寿之進父子を紹介します。展示資料は、今年2月、東京都在住の妻木達一氏より寄贈された計50件の資料の一部です。妻木家は江戸時代中期に吉田家と縁戚関係を結び、幕末には弥次郎・寿之進父子が松陰より山鹿流兵学を学びました。妻木家の家宝とされた松陰自筆の教訓書(展示資料8)ほか貴重な資料を通じ、松陰の指導方針の一端をご覧ください。

○吉田松陰【よしだ しょういん】(1830~1859)

名は矩方^{のりかた}、通称は大次郎・寅次郎など、号は松陰・二十一回猛士。藩校明倫館の山鹿流兵学師範。米国への密航に失敗後、松下村塾を主宰。安政の大獄により江戸で処刑されました。

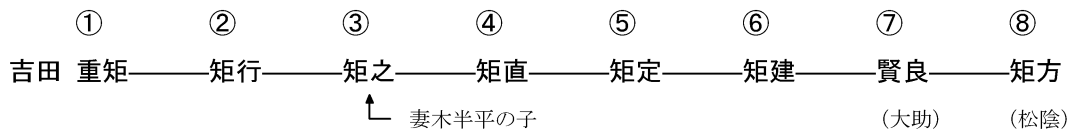
○妻木弥次郎【つまき やじろう】(1825~1863)

名は忠順、字は士保。明倫館における松陰の山鹿流兵学高弟で、松陰の諸国遊歴中および脱藩後にいたるまで、藩校明倫館の兵学教場の維持に努めました。

○妻木寿之進【つまき ひさのしん】(1846~1890)

名は忠篤、字は君甫、のちに狷介^{けんすけ}と改称。松陰の山鹿流兵学門人で、12歳の安政4年(1857)8月、松下村塾に入門。維新後は地方官を歴任、明治19年(1886)岡山県書記官となり、第三高等学校医学部(現在の岡山大学医学部)の設置に尽力しました。

○吉田家と妻木家の縁戚関係



1. 松陰が妻木弥次郎に与えた兵学伝授書 (吉田松陰筆「山鹿流兵学伝授書」)

松陰は6歳で山鹿流兵学師範の吉田家を継ぎましたが、独立の兵学師範となったのは19歳のときでした。その間、藩校明倫館では代理教授が指導にあたっていました。この伝授書は、松陰が20歳の嘉永2年(1849)4月、5歳上の弥次郎に与えたものです。

2. 妻木弥次郎が松陰に贈った壮行の言葉 (妻木弥次郎筆「吉田義卿を送る序草稿」)

弥次郎が嘉永6年(1853)正月、江戸遊学に出発する松陰に贈った送別文の下書きです。松陰は22歳の嘉永4年(1851)12月から翌年4月まで、脱藩して東北地方を遊歴した罪により、藩士の身分を剥奪されました。弥次郎はこの一文で、逆境に屈することなく、さらに学問を深めるため江戸へ出るという、高い志を抱く松陰を激励しています。

3. 妻木弥次郎が受けた砲術伝授書 (守永弥右衛門筆「荻野流砲術伝授書」)

弥次郎が嘉永6年(1853)8月、荻野流砲術師の守永弥右衛門より与えられたものです。

4. 松陰が妻木弥次郎に送った手紙 (吉田松陰書簡 妻木弥次郎あて)

野山獄中の松陰が安政2年(1855)3月27日、弥次郎に送った手紙です。松陰はこの手紙を書くちょうど一年前、米国への密航に失敗し捕縛されました。このため吉田家の山鹿流兵学を途絶えさせかねないと謝罪しつつ、弥次郎らの尽力で兵学の講義が保たれていることに感謝しています。また欧米列強が迫りくる今、志士が力を尽くす時だとも訴えます。

5. 松陰が添削した妻木弥次郎の兵学論 (妻木弥次郎筆「士大将以下諸職心得書」)

弥次郎が安政4年(1857)ごろに執筆したとみられる山鹿流兵学についての論考です。行間などに朱筆で添削したのは松陰で、徹底した指導振りをうかがうことができます。

6. 妻木寿之進が11歳の時に叔父に送った作文 (妻木寿之進筆「安川叔父に与ふる書」)

寿之進が11歳の安政3年(1856)に書いたものです。寿之進は10歳のとき、松陰から「学問に励めば見聞・知識が広がる。あなたは未熟だからぜひ勉強しなさい」と言われたことが忘れられないと述べます。また欧米列強が日本を狙っているこの時分だから、武士たる者は励まねばならないとも伝えています。寿之進はこのあと松下村塾に入りました。

7. 松陰が妻木家との縁戚関係を説明した書 (吉田松陰筆「奉書の後に書して妻木士保に送る」)

松陰が安政4年(1857)3月、弥次郎に送ったものです。松陰は古文書により、妻木家から吉田家に養子が入っていることを証明します。そのうえで、弥次郎と交流するようになって十数年が経過しながら、古くからの関係を調べることを怠ってきたと反省しています。

8. 松陰が妻木寿之進に与えた教訓書 (吉田松陰筆「妻木寿之進に与ふる書」 妻木達一氏蔵(寄託))

松陰が安政4年(1857)8月、松下村塾に入った12歳の寿之進に贈ったものです。「父母より受けた身体を傷付けないようにするのは孝行の始まり、立身して後世に名を残すのは孝行の終わり」という内容。寿之進は、松陰からこの文を毎朝神前に向かって3遍読むようにと言われ、肌身離さずこれをお守りに入れて生涯を閉じました。

9. 松陰の兵学教授許可申請書 (妻木弥次郎筆「家学教授許可申請書控」)

妻木弥次郎ら松陰の兵学門人が連名で、安政5年(1858)7月、藩に提出した申請書の控えです。当時松陰は、実家杉家にて松下村塾を主宰していましたが、藩は他人への面会を禁じていました。藩はこの申請をすぐに受け容れ、松陰の兵学教授を公認しました。

10. 妻木寿之進履歴書 (「亡父狷介仕官以前ノ略歴」)

岡山県の書記官であった寿之進(狷介)は数えて45歳の明治23年(1890)に逝去しました。この履歴書は明治時代後期以降、子の栗造が母から聞き取って書いたとみられるものです。寿之進は11歳のころ松下村塾に入り、小畑(萩市椿東)から日々通ったとあります。
